

身近な文化財

第十話

白河石と
石切丁場

市内では、通称『白河石』と呼ばれる石材が露出する所が数多く見られます。白河石の正式名称は、安山岩質溶結凝灰岩と言いい、柔らかく加工しやすい特徴があります。

白河石は、古墳の石室や石碑などに用いられてきたほか、身近な石造物の材料となるなど、白河の歴史や文化と深いかわりがあります。

白河のまちの中心的な文化財である小峰城の石垣においても、膨大な量の白河石が使用されています。

石垣の石材は「石切丁場」と呼ばれる採掘場から「矢」と呼ばれるくさびで割られ、小峰城に運ばれてきました。石を割った際についた矢の痕（矢穴）は、石垣でも見ることができます。



小峰城の石切丁場としては、記録に文珠山と羅漢山が記されています。文珠山は山全体の石材が切り出され、地名に名残を留めるのみですが、羅漢山では、南側斜面の岩盤や落下している石に、矢穴を確認することができます。

近代に入っても、白河の産業として白河石の採掘が続ぎ、白河駅・久田野駅から全国に出荷されてきました。現在も、建物の土台などの材料として幅広く使用されています。

白河石は、さまざまな形で市内各所に使われ、白河の風景の一部になっていると言えるのではないのでしょうか。



▲露出した岩盤
(羅漢山石切丁場)
▲岩盤の矢穴

問文化財課 ☎2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.10 問都市計画課 内2232

今月号は「屋外広告物」をお知らせします。私たちの住むまちには、ポスターや立看板、広告板など、さまざまな屋外広告物が表示されています。屋外広告物は、私たちの生活に必要な情報を提供する重要な情報源であるとともに、まちに賑わいや活力をもたらします。しかし、無秩序に数多く表示されると、情報が的確に伝わらなかったり、美しい景観が損なわれたりするおそれがあります。また、適切な維持管理が行われないと、落下や倒壊などにより人々に危険がおよぶことも考えられます。

市では、良好な景観の形成や屋外広告物の安全性の確保を図るため、平成28年に市独自の屋外広告物条例を施行しました。現在は、条例に基づき、地域の特性に合ったよりきめ細やかな規制・誘導を行っています。

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をInstagramで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ



屋外広告物の改善例



鮮やかな色彩を避けるだけで、落ち着いた印象に！

広告物の形態や色彩を工夫すると、すっきりした印象に！

適切な維持管理のお願い

近年、老朽化や台風などの自然災害による屋外広告物の落下事故が全国的に発生しています。屋外広告物を設置している皆さんは、定期的に安全点検を行うなど、適切な維持管理をお願いします。